

みどりのこえ

春号
2020



No.60

発行 長野県環境保全研究所

令和2年(2020年)3月15日

編集 長野県環境保全研究所 自然環境部(飯綱庁舎)

〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



令和元年東日本台風で破堤した宮城県吉田川

令和元年の洪水被害

文・写真 風間 聡

私は初心者にも関わらず大学スキー部でノルディック複合をやっていた。1月上旬は野沢温泉で合宿、2月下旬は岩岳で全国国公立大学選手権、3月末の志賀高原の距離レースと冬の半分は長野に居るような生活であった。今はそのスキー部長をやっている。ここ数年、学生から雪不足で野沢温泉のジャンプ台が作れないとか、岩岳ではコース以外に雪が無いなどの話を聞くと、温暖化が現実になりつつあると実感する。気候はやはり変化している。

令和元年は猪年で災害の多い年と言われていた。しかし、千曲川が破堤したり、大好きだった別所温泉への鉄橋が流されたり、さらに新幹線車両基地が浸水するなど誰が予見できたのだろうか……とは専門家は言わない。もともと長野市周辺は、上流側で大きな川が合流し、下流側で川幅が狭くなる狭窄部(きょうさくぶ)である。氾濫しやすい地形である。堤防やダムはある確率の洪水を守るように設計されているが、これは逆に残りの確率の洪水を守れないことを意味している。つまり、早かれ遅かれ氾濫は起こったのである。

治水とは洪水から人や資産を守る政策である。治水のジレンマ：

「堤防を高くすると水害の経験が無くなり、氾濫時に犠牲者が増える」。戦後、脈々と治水を続けてきたので、生まれて初めて水害を経験

する人ばかりである。温暖化は台風を北上させ、豪雨を頻発させる。水害未経験者の増加と相まって犠牲者は増える。

とはいえ、むやみに心配することはない。地震と違って今は雨と洪水の予報精度が数段良い。1日前には強い雨が降るかどうかわかる。ハザードマップはあなたの家の浸水度合いを教えてくれる。リアルタイムの雨や川の情報も手に入れられる。我々は事前に氾濫に備えることができる。ところが自分は大丈夫と思うから多くの人は備えをしない。情報はあつと決断と行動だけ。

(かざま そう/東北大学大学院工学研究科教授)



Contents

【巻頭言】 令和元年の洪水被害	1	【特集2】 座談会 気候変動の中で、縄文人に何を学ぶか	6
【特集1】 地球温暖化と豪雨災害	2	【信州自然ガイド No.8】 美ヶ原高原	10
地球温暖化の実態と豪雨頻度の変化	2	【開催報告】 第25回信州自然講座	11
令和元年東日本台風、山と雨	3	【開催報告・ご案内】	12
気候非常事態宣言	4	山と自然のサイエンスカフェ@信州 令和2年度の催し	
堆積物からみる千曲川の水害	5		